

TADAIMA RYUSOU

ただいま、りゅうそう。

vol.3 / 2025年8月号



OKAERI

おかえりなさい



ただいま、おかえり。

カッパを愛した瀬名の版画家

中川雄太郎（ながわゆうたろう 1910～1975）は、瀬名の江戸時代初期から続く地主の長男として生まれました。中川家は代々、惣太夫を名乗る名主で、雄太郎はその七代目です。

美術が好きで、旧制庵原中学（現清水東高校）在学中から版画をはじめ、昭和四年、同級生と蘆美会（あしびかい）、地元瀬名の青年たちと竜南芸術研究会を立ち上げ創作活動を続けました。また、小川龍彦ら当時の静岡の版画仲間が集まった童士社（どうししゃ）に同人として参加するほか、昭和五年より自ら文芸同人誌『かけたつば』を発刊、昭和八年にはこれに版画同人誌に変えました。同年、国画会、日本版画協会展に初入選、以後これらを舞台に版画家として活躍しました。国内のみならず、海外の版画展にも出品し高い評価を得ていました。

雄太郎はまた、瀬名村の人々と共に、村の暮らし、村の歴史を研究し、郷土史家として多くの著書を残しています。特にカッパの研究をし、村人から「カッパの雄太」といわれるほどでした。更に教育者として、静岡星美学園、静岡英和女学院、静岡市立商業高校などで美術を指導しました。

中川雄太郎の作品は、目まぐるしい時代の変化の中で、失われてしまう生活や言い伝えを美術で表現し、記録・伝承しているように感じます。リンク西奈に中川雄太郎の作品が展示してありますので親しんでいただければ幸いです。

中川雄太郎顕彰会 伊久美勝久



目次 contents

竜爪園レター	3
事例発表会	4
RYUSOUと生きる人 #5	6
RYUSOUと生きる人 #6	8
イベントレポート	10
RYUSOU ANIMAL FAMILY	11
チーム紹介（地域包括支援センター）	12
RYUSOUやさしいキッチン	13
ボランティア紹介	14
ほっこりエピソード	15
編集後記	

温もりの場所

竜爪園レター

竜爪園で同じ空気を吸い、生活を共にするご利用者から届いたお手紙の一部をご紹介します。

「ただいまりゅうそつ」を読ませていただきました。このホームがすばらしいのが良く分かりました。このホームを立ち上げた中野菊乃さんといふ人が、やさしく立派なので、中のスタッフさんが男女とわず皆んな親切でやさしくて良い人ばかりなのが良く分かりました。私は2月より入所させて頂きましてお世話になっております。

【いっしょに笑つ、いっしょにはしゃぐ】
とても良い言葉です。

中野菊乃さんがやさしく立派な人なので、山内理事長さんのようなやさしく立派な人が継承してくださいましたね。

竜爪園パンザイ、私はこの本をよんで心よりうれしくなりました。りっぱな山内さんが継承してくださいましたから本当に良かったです。

もうホームは心配ないですね。
人間は、はしゃぎ笑い、よくしゃべって、はじめて人間らしいですね。わたしはつくづくそう思いました。私をこちらのホームに紹介してくださいました方はケアマネジャーのますながさんです。本当によいところうれしいです。こころより感謝しています。

このお手紙をいただいた時、私たちスタッフ一同、深い感動と共に身の引き締まる思いを感じました。

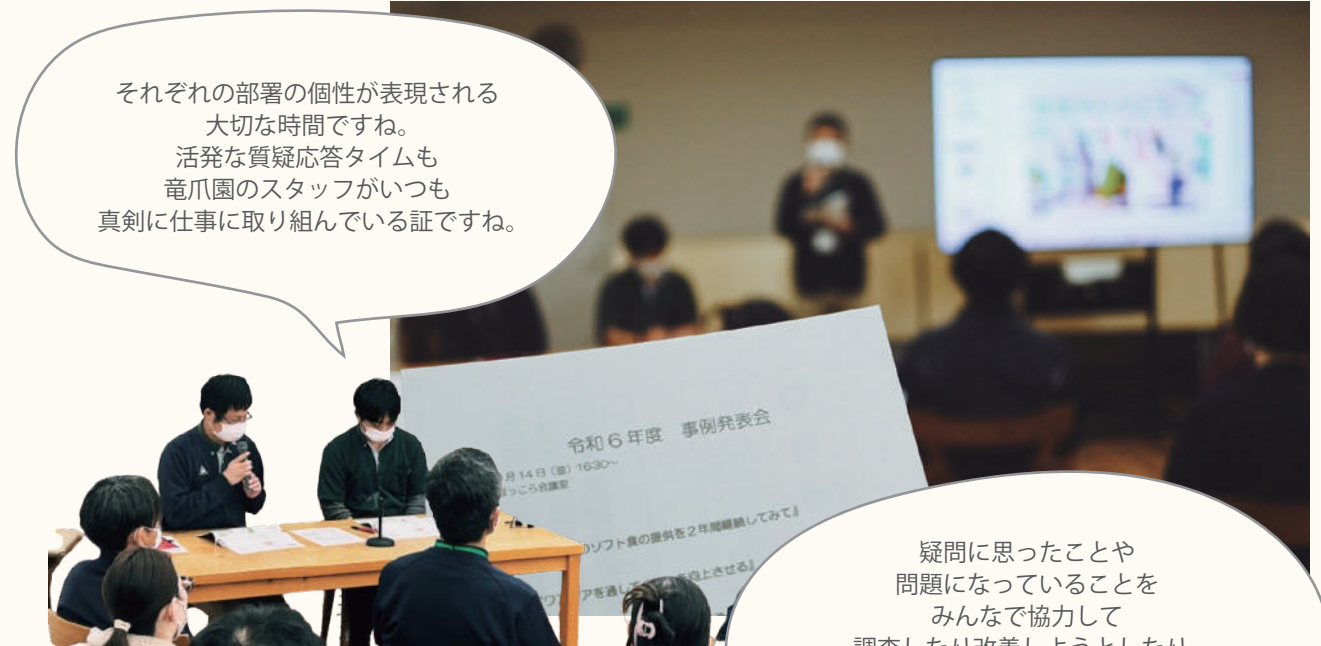
「人間は、はしゃぎ笑い、よくしゃべって、はじめて人間らしい」というお言葉は、まさに私たちが大切にしている「いっしょに笑つ、いっしょにはしゃぐ」という核心を表現してくださっています。ご利用者がこの施設での生活を通じて、人間らしい喜びや温かさを感じてくださっていることを知り、私たちの日々の取り組みが確かに届いていることを実感いたします。

創設者である中野菊乃さんから受け継がれた想いと、現在の山内理事長のもとで育まれている施設の雰囲気、ご利用者の心に響いていることを大変嬉しく思います。「竜爪園パンザイ」というお言葉からは、この場所を心から愛してくださっている気持ち伝わってきます。新しい環境での生活に不安もありません。私たちが、こうして心からの感謝のお言葉をいただけることは、私たちにとって何よりの励みとなります。

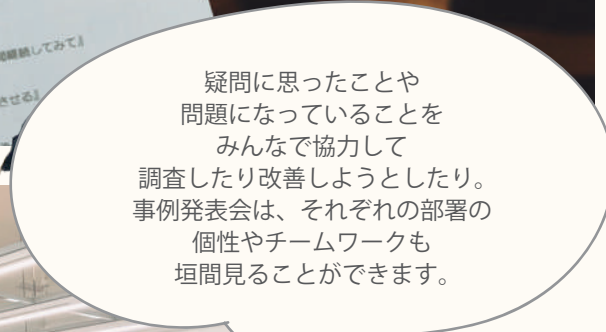
このお手紙は、竜爪園で働く私たち全員にとって宝物です。ご利用者一人ひとりが「人間らしく」生き生きと過ごしていただけるよう、これから心を込めて寄り添わせていただきます。



令和6年度事例発表会



それぞれの部署の個性が表現される大切な時間ですね。活発な質疑応答タイムも亀爪園のスタッフがいつも真剣に仕事に取り組んでいる証ですね。



疑問に思ったことや問題になっていることをみんなで協力して調査したり改善しようしたり。事例発表会は、それぞれの部署の個性やチームワークも垣間見ることができます。



どの部署もとても面白い研究と発表でした！

スライドの表現にもそれぞれの部署の特色が出ていてとても面白いです



各部署の登壇者の内容はホームページで紹介しております。ご覧ください。



今年度も亀爪園では、各部署から選ばれた代表者による事例発表会が開催されました。スタッフ一人ひとりが数ヶ月という長期間をかけて、自分たちの手で研究を重ね、その成果を披露する貴重な機会となっています。

研究内容は実に多様で、各部署のスタッフが日頃の業務の中で感じている疑問や課題を掘り下げたもの、社会全体の高齢化や介護を取り巻く環境変化といった大きなテーマに取り組んだもの、そして何より、スタッフとご利用者さんが日常的に交わす何気ない会話の中から生まれた気づきや発見を研究として昇華させたものです。どの研究も現場に根ざした実践的な内容で、介護の質向上に直結する貴重な知見が詰まっています。当日の発表はスライド形式で行われ、各発表者が工夫を凝らした資料を用いて、自らの研究成果を熱心に語りました。どの発表も聴衆の心を掴む魅力的な内容で、会場には真剣に耳を傾ける同僚たちの姿がありました。

発表後には会場から次々と質問が投げかけられ、活発な議論が展開されました。「実際の現場ではどのように活用できるのか」「他の部署でも応用可能な内容はあるか」といった具体的な質問が飛び交い、この企画に取り組むスタッフの皆さんの熱量と真剣さを強く感じることができました。現場で働く一人ひとりの探究心と、常により良いケアを追求しようとする真摯な姿勢が存分に表れた、素晴らしい発表会となりました。厳正なる審査のもと、選ばれた一つの部署は、園の代表として浜松市で開催される介護事業者が一堂に会する大会での発表という栄誉を手に入れました。

代表者インタビュー 佐藤さん

Q なぜ、この事例に取り組むことにしましたか？
A 主任からの勧めもありましたが、何よりフロア職員の多くが、A様への介護（対応）について「もっと私たちにできることはないだろうか？」と真剣に考えていたことが大きな理由です。この事例を取り上げること、一つの解決策を見つけたという気持ちで取り組みました。研究を進める中で、実際にご利用者としてかりと向き合い、フロア全体で一丸となって考えていくことができました。

Q 今回、園の代表に選ばれたお気持ちは？
A 自分一人の力だけでなく、フロアの皆さんの多大な協力があったからこそ、この研究発表を完成させることができたと思っています。ですから、感謝の気持ちがいっぱいです。チーム一丸となって取り組んだ成果が認められたことを、とても嬉しく思います。

Q 大会に出場する意気込みをお聞かせください
A フロア職員の皆さんの支援はもちろんのこと、ご利用者のA様、そしてA様のご家族の協力があったからこそ、このような晴れの舞台に参加できることになりました。本当にありがたく思います！本番では悔いのないよう、しっかりと発表していきたいと思えます。亀爪園の取り組みを多くの方々知っていただき、介護の質向上に少しでも貢献できれば幸いです！



水ユニット 佐藤さんの研究テーマは、「メリハリのある生活のために」でした。見事園の代表者に選ばれた佐藤さんの発表の様子です。スライドもとてもわかりやすく、写真や文字を使っていて、フロア全体のチームワークも感じられました。佐藤さんは、浜松市で開催される発表会に出場します。ご利用者・ご家族の協力があったからこそその栄誉です。

支えるということ

看護師 高田直哉

3年前、母親が顎下腺がんを患いました。手術、放射線治療の後に転移が分かり、先生から話があるとのことで家族が呼ばれました。病状はすでに末期であり、今後は苦痛を最小限にする治療が中心になること、そして家族との限られた時間を大切に過ごすようにとのことでした。半年前までは元気に生活していた母でしたので、全く実感がわきません。しかし病状は日々進行し、それを身をもって感じていた母は、行く末を一番先に受け入れたのです。父と私に「もう十分生きた。今までありがとう」と言いました。そして逝った後の心配までして、その2か月後に75歳の天寿を全うしました。本来は家族が先に逝く本人を支え、抛り所となることが大切なのだと思います。しかし最後まで狼狽していたのは家族で、この時はじめて親を亡くす者の揺れ動く気持ちを知りました。そして家族のかたちも色々あることを知りました。

亀爪園では、大半の方が園で寿命を全うされます。少しずつ食が細くなり、あるいは体調を崩すことをきっかけに段階的に衰弱し、ある段階で死を覚悟するのでしょうか。お顔は凛としていて、最期のお顔も穏やかです。しかし家族はその状況を目にした時、なかなか受け入れられないことがあります。今まではご本人の最期を支えることが家族の役割だと思っていました。しかし母の死を通し、決してそうではなく、先に逝くものが残されたものを思い、大切なことを伝えて逝くこともあることを知りました。

人生の主人公はご本人です。自分らしく最期まで生き、より良い最期を迎えることは大切です。ご家族のさまざまな思いも大切です。そしてご本人とご家族の数だけ、そのかたちはあります。これからも、ご本人とご家族の思いに真摯に向き合い、寄り添った支援をしていきたいと思えます。



亀爪家族へ
Q&A

好きなこと：温泉巡り

おすすめのお店：焼津のひもの食堂 ヤマクニ水産です。燻し具合が最高です。宝くじが当たったら：1,000万円以上なら半分寄付し、残ったお金でシルクロードの要衝「青の都」サマルカンドのイスラム建築を観たい。当たらなくても行きたい。



ご家族みなさんの

想いを汲み取り寄り添いたい。

Ryusou family Takada Naoya

RYUSOU と生きる人 #05

介護未経験から

従来型特養 3階 介護職員 市野希央

私は高校を卒業して竜爪園に令和4年の4月に入社しました。私は介護の知識や経験がなく、入社当時は仕事を行う中で戸惑う事や大変な事が多くありました。ご利用者の介護を行う中で、専門職である機能訓練指導員による指導にとっても支えられました。

介護業務では職員が身体を使う動作が多くあります。中でも、ベットや車椅子に移乗する際の移乗方法や、姿勢の整え方は、ご利用者ごとに様々であり、当時はそれがとても難しく感じられ、日々悩みを抱えていました。その中、機能訓練指導員に相談すると、直ぐに応じて下さり、実際にご利用者のベット移乗を行いながら、移乗方法の説明と指導をしてくださいました。指導の際に、基本動作だけでなく、専門的な知識を交え、移乗の動作方法も幾つか教えて頂くことができたため、移乗に関する理解が深まり、コツを掴むことが出来ました。そのおかげで、ご利用者の移乗介助に対する不安がなくなり、繰り返し行う事により、自信が持てるようになりました。介護の仕事を経験から始め、不安なことが多くありましたが、移乗をきっかけに他の業務にも自信がつくようになり、今でも機能訓練指導員から受けた指導を大切にしています。

そして、私は今、配属部署でポジショニング係という係に所属しています。ポジショニングとは、自力では体を動かす事が難しく、ベット上での体位変換が難しいご利用者に、ポジショニング枕などを活用し、安楽な姿勢を提供する事です。竜爪園では、機能訓練指導員と関わりながらポジショニングを行っています。配属部署では、私が率先して、ご利用者のベット上でのポジショニングを行っています。今後もご利用者に安全で快適に過ごして頂けるようなポジショニングを提供できるように、機能訓練指導員との連携を重視して行っていきたいと考えています。



好きなこと：カラオケ
おすすめのお店：プレミアムカルビ
宝くじが当たったら：貯金

支えられて、支え合う。
介護のプロを目指して。



Ryusou family Ichino Kio

#06 RYUSOU と生きる人

RYUSOU やさしい キッチン

美味しいは生きる力

温かいものは温かく、冷たいものは冷たく。

今年も新茶の季節が
やってきました！

五月に新茶を楽しむ会を行いました。
おいしい新茶とともにいつもとは違ったおやつを食べていただき季節感を味わっていただきました。
職員は茶娘の格好をして新茶をご利用者の目の前へ！
「昔は茶摘みをしたよ」や「新茶はやっぱり美味しいね」などの声があがっていました！



RYUSOU TEAM WORK

お困りごとは、なんでも相談してください！



Team 地域包括支援センター Community Comprehensive Support Center

社会福祉法人天心会は、静岡市から委託された長尾川地域包括支援センター（愛称：まるけあ長尾川）として、西奈・西奈南・北沼上学区の高齢者やその家族が地域で安心して暮らせるよう、相談やアドバイス、高齢分野の申請などのお手伝いをしています。



自宅で挑戦！

タンパク質
たっぷり！！

厨房人気メニュー 鶏肉の塩糍焼き タルタル添え

材料（3人分）

鶏むね肉	1枚 (300g)
塩糍	40g
サラダ油	大さじ1
きゅうり	1/4本
パプリカ（赤）	1/4個
マヨネーズ	60g
カレー粉	1g
グリーンリーフ	3枚



《作り方》

- ①鶏むね肉は厚みのあるところは開いて3等分に切り塩糍で20～30分漬けておく
 - ②きゅうりとパプリカをみじん切りし、パプリカは下茹でて水気を切っておく
 - ③2をマヨネーズ・カレー粉とよく混ぜ合わせタルタルソースを作る
 - ④フライパンにサラダ油をひいて火にかける。サラダ油が温まったら1の鶏むね肉を焼いていく
 - ⑤鶏肉に火が入ったら食べやすいように削ぎ切りにしていく
 - ⑥皿にグリーンリーフをしいて5で切った鶏肉を上盛りにする。鶏肉の上からタルタルソースをかけて完成
- 《竜爪園ポイント》
- *きゅうりとパプリカは細かくみじん切りするとタルタルソースの色合いが鮮やかになります。お好みの大きさにみじん切りしてみてください
 - *鶏肉を焼くときに少量の水を入れて蒸し焼きにすることで柔らかく焼きあがるので食べやすいです。



Q 地域包括支援センターって？

現在、長尾川地域包括支援センターには社会福祉士が3名、看護師が1名在籍しており、高齢者が安心して生活できる環境を提供するために、それぞれの専門職としての知識と技術を活かして、以下の活動を展開しています。

『相談支援』…高齢者およびその家族からの相談を承り、介護保険サービスの利用方法についてのご案内や介護保険申請のサポート、地域で利用可能なサービスに関するアドバイスなど、高齢者の様々な相談に対応しています。
『介護予防ケアプランの作成』…高齢者が必要とする介護予防サービスを高齢者と一緒に考え、ヘルパーやデイサービスなどを利用するためのケアプランを作成しています。

『権利擁護』…高齢者の権利保護を目的とし、消費者被害の防止および虐待の早期発見と防止のための講座を開催しています。また、成年後見制度の利用支援を行っています。

『地域連携』…医療機関や福祉施設、地区社協や民生児童委員、ボランティア団体などと協力して、高齢者が地域で安心して暮らせるように退院後の生活支援や孤立防止の活動を行っています。

『予防支援』…高齢者が健康で自立した生活を維持するために、健康維持のための運動教室や認知症予防のための講座などを開催しています。

Q 相談内容が対応範囲外 だったらどうしよう？

地域包括支援センターは、地域の高齢者に関する幅広い相談を受け付ける『よろず相談所（総合窓口）』となります。仮に当センターで対応が困難な相談内容であっても、「ワンストップサービス（一つの窓口ですべての対応を行うこと）」を目指しております。頂戴したご相談内容に応じ、適切な機関との連携を図り、サポートを提供いたしますので、どうぞお気軽にご利用ください。



JA 静岡市瀬名女性部 支える人たち



竜爪園では、多くのボランティアの方々に来てくれています。開園当時から来てくださっているボランティア団体の方や、シニアサポーターに登録されている方など様々なボランティアに支えられています。ご入居者の衣類等に名札を付けてくださる方、シーツ交換をおこなってくださる方、車いすを掃除してくれる方、こどもの居場所活動の食事づくりなど様々なボランティアを行っていただいています。またこどもの居場所活動では多くの学生サポーターが活躍し、園とともに地域のことにも関わってくれています。

special thanks

ご寄付者様、ボランティア様のご紹介

恒友会様/すみれ会様/海野好子様/杉山敏子様/矢口美広様/西沢悦子様/小野田清子様/ JA 静岡市瀬名女性部様/常葉大学・静岡福祉大学 静岡県立大学等の大学生・高校生の皆様
ありがとうございました。

Q どんな活動をしていますか？

▼竜爪園でのボランティア活動のみ行っています。主に月に一回シーツ交換のボランティアで訪問しており、年に一、二回は集めたウエスを切って届けています。手提げ袋などの手芸で作ったものを寄付したこともあります。

Q 何人で活動されていますか？

▼八名のグループで、竜爪園にはそのうちの四〜五名で訪問しています。

Q 活動のきっかけは？

▼一昨年(2023年)の下旬から活動しています。ボランティア活動をしようと思って、こちらから竜爪園さんの方に連絡をしました。家族が竜爪園にお世話になっていた経緯もあり、声をかけさせてもらいました。

Q 活動のやりがい？

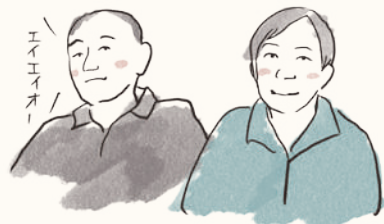
▼ご利用の方が「ありがとう」と声をかけてくれることがうれしいです。みんなで集まれる機会(場)を提供してくれることもうれしいです。



ほっこりエピソード vol.1

竜爪園で働くスタッフと、ご利用者との会話の中から生まれた、ココロがほっこりするお話をご紹介します。竜爪園らしい心が温まるエピソードの数々をお楽しみください。

ずっと居室で過ごされていたM様。食事も排泄も入浴もイベントもフロアから出ない方でした。新卒一年目でオムツを当てるのが下手で何度も体交し、介助が長くなってしまいましたが、M様に「真面目にやってくれているのは分かるから安心します」と仰っていただきとても胸が軽くなったことを覚えています。



眠そうにしているのに
急な「エイエイオー！」
と、その後の雑談は
最高に面白かった。

編集後記

今月の編集室より

「TADAIMA RYUSOU」も3回目の発行となりました。少しずつ内容が変わっていて、職員同士のコミュニケーションのツールになればいいなあと考えております。広報誌は、様々な方々に協力いただいて作り上げられていると感じています。エピソードを担当する職員さんの文章がいつも素敵で読むのを楽しみにしています。ご協力していただける職員さんに感謝しつつ、これからもよりよい広報誌を届けられるように、お力を貸していただければと思っています。

広報企画委員 小林亜由香

掲載SDR111か
園の良さが届く
冊子のご紹介

